

| | | | |
|--------------------|--|---|----|
| 会議名 (審議会等名) | 平成21年度第2回川西市社会福祉審議会児童育成専門部会 | | |
| 事務局 (担当課) | こども部 子育て室 子育て支援課 内線(2683) | | |
| 開催日時 | 平成22年2月16日(火) 15時30分～16時30分 | | |
| 開催場所 | 川西市役所4階庁議室 | | |
| 出席者 | 委員 (敬称略) | 西尾部会長、喜谷職務代理者、古谷委員、南委員、柳川委員、林委員、下山委員、橋本委員、森友委員、今井委員、種池委員、中井委員 計12人 | |
| | 事務局 | こども部後藤部長、子育て室藪野室長、子育て支援課田淵課長、保育課塚北課長、同課山元主幹、青少年支援課小倉課長、子育て支援課中西課長補佐 | |
| | その他 | 福祉推進室根津室長、保険年金室井谷参事、障害福祉課荒崎課長、健康づくり室木下主幹、学校教育室仲室長、教育情報センター木下所長 | |
| 傍聴の可否 | <input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 不可 ・ 一部不可 | 傍聴者数 | 1人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | | | |
| 会議次第 | 1. 説明事項 (1) 「子ども・子育てビジョン」について 2. 協議事項 (1) 「川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)」案について 3. その他 | | |
| 会議結果 | 詳細は審議経過のとおり | | |

| | |
|-----|---|
| | <p>1. 開会 2. 議事</p> |
| 部会長 | <p>本日の議事に入る。報告第1の「子ども・子育てビジョン」について、事務局より説明願いたい。</p> |
| 事務局 | <p>(「子ども・子育てビジョン」について説明) …別紙資料1 質疑なし</p> |
| 部会長 | <p>協議第1の「川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)案」について、事務局より説明願いたい。</p> |
| 事務局 | <p>(「川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)案」について説明) …別紙資料2</p> |
| 部会長 | <p>「子ども・子育てビジョン」に基づき、今後変更もあり得ることを踏まえて、質問をお願いします。</p> |
| 委員 | <p>68 ページ No47 の「認定こども園の検討」に関して、先の「川西市保育所整備計画」策定時の懇話会において、子どもにどのような影響を与えるのかといった視点で議論があり、今後、市として十分検討を重ねていくとなった。「川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)案」では、平成 26 年度の目標が「推進」となっているが、説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>保育所整備計画では「認定こども園については、制度の課題などを十分に精査するなど、調査・検討を進める」と表現されている。次世代育成支援対策行動計画においても、保育所整備計画と整合を図る必要があり、指標については「認定こども園の検討を推進する」としている。認定こども園については様々な意見がある中で、子どもたちにとって最善の環境を提供するという視点で検討を進めていくという趣旨である。</p> |
| 委員 | <p>保育所、幼稚園、認定こども園、それぞれに欠点はある。その欠点をカバーできるよい点がどれだけあるかが問題である。子育てに悩む保護者が多い中で、保育所の入所においては保護者の就労といった基準があり、保護者が保育所に預けたくても入所できないといった課題がある。認定こども園の場合は、保護者が就労していなくても受け入れが可能になり、保護者が自信を持って2人目、3人目を生み育てることにつながる。0歳からの保育の受け入れ、延長保育などのニーズに応えていくことが大切だと思う。</p> |
| 部会長 | <p>文部科学省、厚生労働省といった管轄の違い、考え方が違う施設を一緒にするには摩擦があって当然である。保育所は保育に欠けることを入所の条件</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>にしているため、子どものための施設なのか、保護者のための施設なのかといった議論が絶えない。子育てに悩む保護者が増え、虐待にいたるケースもあるといった状況の中で、入所条件を緩和する必要があると考える。幼稚園、保育所、双方の立場を固辞したままで議論を進めるのではなく、子どもの視点で、子どもを健全に育てていく施設として、議論を深めていくと解決の方向も見えてくると感じる。</p> |
| 委員 | <p>中・高校生のアンケート調査結果では、川西市への定住意識が低い結果となっている。次回のアンケート実施時に、理由もあわせて聞くことができれば、子どもの視点からの子育て施策に対するヒントになると考える。</p> |
| 事務局 | <p>定住意識には、市内に魅力ある企業や職種があるのかといったことが大きく影響していると考え。川西市内には企業が少なく、アンケート調査結果でも、市内で働くことを希望する率が低いことから、定住意識の低さにつながっている一つの要因ではないかと推察する。</p> |
| 部会長 | <p>子どもたちが育っていく環境の中で、どれだけ郷土愛を育む活動をしてきたか、市全体の問題として考えていくべきことでもある。</p> |
| 委員 | <p>計画では「子どもの視点」が重視されているが、多くの施策が子どもがおとなに与えられている事業となっている。子どもたち自身が企画し、自分たちで進めていく施策が多くなればと考える。</p> |
| 委員 | <p>PTCA フォーラムでは中・高校生が企画・運営を行っているが、子どもらしい発想の意見が多く出るなど、子どもたちの力に感心している。子どもたちが力を発揮する機会を増やす必要があると考える。例えば、地域によって児童数が大きく減少している「子ども会」であるが、減少理由の一つに、保護者が運営に関われないといった理由もあるようだが、保護者はサポート役となり、運営を子どもたちに任せる組織づくりができれば、郷土愛につながるように思う。</p> |
| 事務局 | <p>教育委員会では「子どもたちの生きる力を育む」を目標の一つに掲げている。学校教育の中で、子どもたちが主体的に学ぼう、取り組もうとする場面が増えているので、これから子どもたちの活用力をさらに伸ばしていきたいと考える。また、「ふるさと志向の支援」として歴史や文化、地域の産業など、フィールドワークを中心に、学年など発達段階に即した取り組みがスタートしたところである。今後、子どもたちの主体的な取り組みなどを取り入れることも検討しながら進めていく。</p> |
| 部会長 | <p>これで、第2回川西市社会福祉審議会児童育成専門部会を終了する。</p> |

※別紙資料は、市政情報コーナーに備え付けています。